

第1学年 道徳学習指導案

平成26年11月11日（火）第5校時

1 主題名 ともだちとなかよく 2－（3）

資料名 「およげない りすさん」 出典 文部科学省「わたしたちの道徳」1・2年

2 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について

本主題は、内容項目2－（3）「友達と仲よくし、助け合う。」ことをねらいとし、友達との間に信頼と友情及び助け合いの精神をもった児童を育てようとする内容項目である。この内容項目は、第3学年及び第4学年の内容項目2－（3）「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」に発展し、さらに、第5学年及び第6学年の内容項目2－（3）「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。」へと発展していく。学校という集団社会の中で培われた人間関係は、今後、児童が生きていく上で重要な基盤になっていくと考える。

児童にとって友達とは、家族以外で特にかかわりを深くもつ存在であり、遊び仲間などとして影響し合いながら生活をしている。また、世代が同じ者同士として、似た体験や共通の話題、互いの考え方などを交え、豊かに生きるための大切な存在として、成長とともにその影響力を拡大させていく。このようなよい友達関係を築くには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情を育んでいくことが大切であると考え。

低学年段階の児童は、幼児期の自己中心性がまだ強く残り、周囲にいる友だちにまで十分に世界観が広がっておらず、友達との立場や考え方の異同を意識できないケースも少なくない。また、違いを意識できたとしても、自分と異なる考えを受け入れたり、相手の立場や心情を考慮したりすることは難しいことも多い。

学校生活の中では、互いに協力して仕事をしたり、仲よく遊んだりする活動を積み重ね、振り返りをしたりして、自分の中で友達がいることのよさを感じ、友達との在り方を考えさせていきたい。そして、一人一人の児童が友達とのかかわり合いをもちながら、毎日生き生きと楽しい学校生活を送れるようにしたいと考える。

（2）児童の実態について

1年生として、2学期も2か月が過ぎた今、1学期の、緊張と不安と楽しみで複雑な表情を浮かべていたころとは違い、自信をもって様々な活動をする姿が見られるようになってきた。それと同時に、友達とのかかわりも少しずつ自分を出しながら広がってきているように感じる。

児童にとって友達は大きな存在で、毎日の生活に影響を与えている。そのため、1年生の段階から、仲よく過ごしたり協力したりすることのすばらしさを感じさせながら、健全な人間関係を身につけさせなければならないと感じる。

そこで、児童は、友達関係について、どのような考えをもっているのかを把握するために意識調査を実施した。結果は、以下の通りである。

5 友だちがいてよかったと思えるときは、どんなときですか。

- ・「いっしょにあそぼう。」と声をかけてもらったとき。
- ・遊んでいるとき。 ・いっしょに帰るとき。
- ・あいさつをしてくれるとき。 ・助けてもらったとき。

6 友だちと仲よくすごすには、どんなことが大切だと思いますか。

- ・なかよくする。 ・けんかをしない。 ・あいさつをする。
- ・いっしょに遊ぶ。 ・いっしょにお話する。 ・助け合う。
- ・やさしくする。 ・いじわるをしない。

なかよしアンケート（実施日 平成26年10月10日）

質問1、2は、本資料の「あひる・かめ・はくちょう」の、相手にいやな思いをさせる立場と、「りす」のように相手にいやな思いをさせられる立場に直接関わる質問である。「友だちにいやな思いをさせられた。」という児童が31%いた。日常の子供達の様子をみると予想したよりも少ない人数である。しかし、31%の児童は、いやなことをされたとき、辛く悲しい思いを抱えていることや他の児童の日常の訴えの多さから、本資料で友達の気持ちを考える必要性を強く感じる。一方、「友だちにいやなことをしてしまったことがありますか。」という質問に対して、「はい」と答えた児童は、わずか2%であった。子供達の様子をみると、実際のところもう少し多い人数になると思われる。つまり、自分では気がつかないうちに他の人にいやな思いをさせていることがあるということである。児童の発達段階の特徴から自己中心的なものの見方しかできていないことが分かる。このことから本資料を通して、相手の気持ちを考える優しさについて考えさせたい。

質問3、4は、今までにどんな優しさや、助けを受けたことがあるのかを調べる質問である。友だちに優しくされた場面の多くが、休み時間の遊びに関わることであった。児童にとって遊びは、友達関係を築いていく大切な時間であることを改めて感じた。全ての児童が、友達に優しくされたり助けてもらったりしたことがあると感じているが、本資料を通して、みんなで仲よく島に向かっていくときの「りす」の気持ちを考え、さらに友達のよさについて感じさせたい。

質問5は、自分にとってどんなときに友達の存在を感じるのかを調べる質問である。ほとんどの児童が「いっしょに遊ぼうと声をかけてもらったとき。」と、やはり、遊びが友達との関わりに大きな影響を与えていることが分かった。本資料を通して、泳げないという理由から仲間はずれにされ、一緒に遊べなかった「りす」の気持ちの辛さにふれながら、友達の存在について考えを深めたい。

質問6については、ほとんどの児童が、仲よく過ごすためにはどのようなことが大切なのかを考えることができていた。しかし、分かっているにもかかわらず自己中心的なものの考え方で、他の人にいやな思いをさせてしまっていることも少なくない。本学習を通して、仲よくすることの価値を自覚させ、よりよい人間関係を築くことにつながるようにしていきたい。

(3) 資料について

本資料は、次の4つの場面に分けることができる。

ア 池のほとりで、「あひる・かめ・はくちょう」が、池の中の島で遊ぶ相談をしている。

そこに、「りす」が来て「つれていって。」と頼むが、「およげないから、だめ。」と断られてしまう。

イ 島で遊んでいても、「りす」のことが気になって、「あひる・かめ・はくちょう」は、楽しくない。そこで話し合う。

ウ 次の日、「りす」が池のそばに行くと「きのうは、ごめんね。」「きょうは、りすさんもいっしょにしまへいこうよ。」と「あひる・はくちょう」が言う。

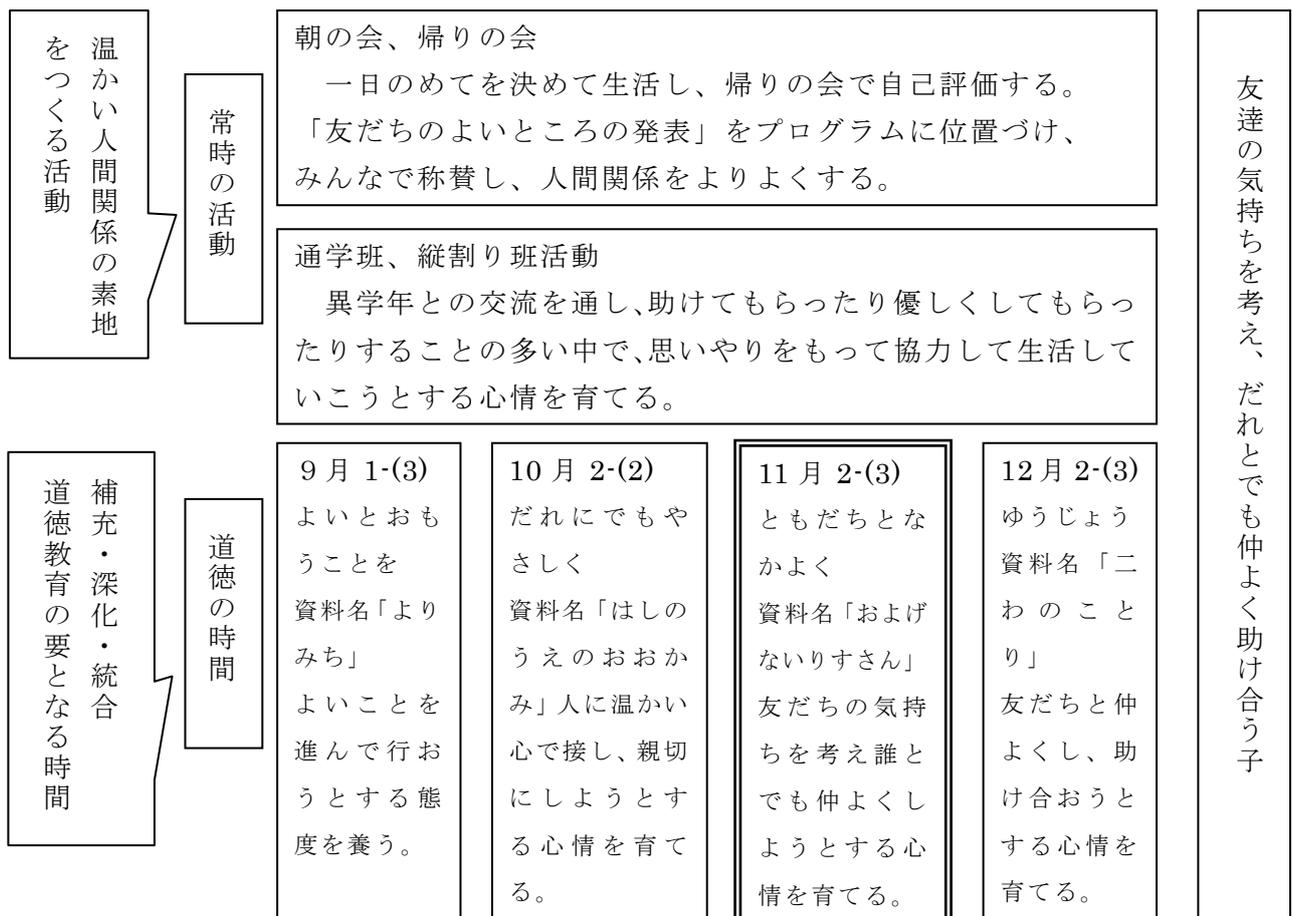
エ 「かめ」は、「ぼくのせなかについていいよ。」と言う。「りす」は、にこにこしながら、「かめ」の背中に乗り、みんなで囲んで島に行く。

「およげないからだめ。」と言われたときの、「りす」の立場や気持ちを感じ取らせるとともに、「あひる・かめ・はくちょう」の心の変化について考えさせ、ねらいとする価値に迫りたい。中心発問では、「かめ」の背中に乗って一緒に島に向かうときの場面で、双方の気持ちや思いを自由に発表させることで、だれとでも仲よく助け合うことのよさに気付かせたい。導入では「なかよしアンケート」の結果をもとに、感じたことを発表させ、本時のねらいの方向付けをしたい。

3 ねらい

友達の気持ちを考え、誰とでも仲よく、助け合おうとする心情を育てる。

4 他の教育活動との関連



道徳の時間以外での
ねらいと関連する体験

各教科等

9月 国語
「おはなしきいて」話す友だちの方を見て、発表を最後まで静かに聞いて発表会に参加させる。

10月 生活
「生活科校外学習」二年生や友達と仲よく、助け合って、探検したり見学したりできるようにする。

11月 児童会活動
「にこにこ弁当・みなみんタイム」縦割り班でお弁当を食べたり遊んだりする活動を通して友達の大切さを実感できるようにする。

12月 学級活動
「おたのしみかいをしよう」2学期を終えるにあたり、クラスでお楽しみ会を計画し、みんなが楽しめるように工夫して会を計画したり参加させたりする。

友だちの気持ちを考え、だれとでも仲よく助け合う子

家庭・地域との連携

- ・ 子供達の様子を学年・学級だよりなどを通して知らせる。
- ・ 道徳の授業を公開し、協力して児童の道徳性を高めるようにする。

5 学習指導過程

段階	学習活動（主な発問）	予想される児童の反応	○指導上の留意点 ☆指導の工夫 ◆評価の観点	資料時間
導入	1 「なかよしアンケート」の結果を見て気付いたことを話し合う。	・ 友だちにいやなことをされて、辛い気持ちになっている子がいるんだな。 ・ みんな、なかよしだな。	○ クラスのアンケートの結果について、思ったことを話し合い、話し合いの方向付けをする。	アンケート結果 5分
展開	2 資料の概要を聞き、資料について知る。 条件・状況 ・ 登場人物…はくちょう、あひる、かめ、りす ・ はくちょう、あひる、かめが、池の中の島へ行って遊ぶ相談をしていると、りすさんも「つれてって。」と頼む。しかし、「およげないからだめ。」と言われてしまう。 ・ 資料の判読を聞く。		○ 登場人物、条件・状況をしっかり押さえる。 ○ 「はくちょう、あひる、かめ」は泳げるが、「りす」は泳げないことをおさえておく。 ○ 「はくちょう・あひる・かめ・りす」の気持ちを考えながら聞くようにする。	場面絵 7分

展 開	と ら え る	<ul style="list-style-type: none"> ・話題の整理と確認をする。 ・心に残った場面を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・りすさんがひとりぼっちになったところ。 ・島で遊んでいるところ。 ・りすさんを島につれていっているところ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の心に残っている場面や話し合いたいところを中心に話題を整理していく。 	
	深 め る	<p>3資料について話し合う。</p> <p>(1)りすをおいていったみんなは、どんな気持ちで「りすさんは、だめ。」と言ったのでしょうか。</p> <p>・そのときのりすさんは、どんな気持ちだったのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・泳げないから無理だよ。 ・おぼれたらどうするの。 ・あぶないからダメだよ。 ・乗せるのは大変だからダメだよ。 ・さみしいな。 ・ぼくのこときらいなのかな。 ・いっしょに遊びたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○集団で意地悪する心情を捉えられるようにする。 ○「りす」が泳げないことを強調し、異質な者を排除しようとする気持ちを捉えられるようにする。 ○仲間に入れてもらえなかった「りす」の気持ちを考えておくことで、遊んでいても楽しくない場面につなげられるようにする。 	場面 絵 短冊 ペー プサ ート 5分
	深 め る	<p>(2)りすさんのことが気になり、みんなは、どんな相談をしたのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・りすさんどうしてるかな。 ・悪いことをしちゃったな。 ・みんな一緒じゃないと楽しくないね。 ・りすさんに謝ろう。 ・りすさんも連れて来よう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「りす」の気持ちも考えずに、仲間はずれにしたみんなの気持ちを捉えることができたか。 (発言・観察) ○みんなで遊んで楽しいはずなのに、なぜ楽しくないのかを考えさせる。 ○真剣に、「りす」について考えている様子を知り、心の変容を捉えられるようにする。 ☆みんなは、どんな相談をしているのかペアで話し合い、主体的に話し合いに参加できるようにする。 	場面 絵 短冊 7分
	深 め る	<p>(3)りすに謝り、りすを背中に乗せて島にわたったみんなはどんな気持ちになったのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・りすさんの気持ちを考えないでごめんね。 ・今度は、いっしょに行こうね。 ・りすさんがいないと楽 	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなで仲よくしているときの晴々した気持ちを感じとらせるようにする。 ☆ペープサートを使い、 	場面 絵 ペー プサ ート 12分

深める	<ul style="list-style-type: none"> そのとき、りすさんは、どんな気持ちだったのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> しくないよ。 心配してくれてありがとう。 ぼくのこと、嫌いじゃなかったんだね。 うれしいよ。 	<ul style="list-style-type: none"> 心の内を話しやすくする。 ○泳げない「りす」を思いやる気持ちが、「りす」を笑顔にしていることに気づくようにする。 	
		<p>◆友だちのことを思いやり、仲よく過ごす、すがすがしい気持ちになることを感じ取ることができたか。 (発言・観察)</p>		
みつめる	4 今日の学習で、何を感じたのか、これから友だちとどうしていきたいかを考えてみましょう。	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの気持ちを考えたい。 助け合って仲よくしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これからの自分について一人一人が考えられるようにする。 ○今までの自分を振り返ることができるようにする。 	ワークシート 6分
		<p>◆友だちの気持ちを考え、仲よくしていこうという意欲をもつことができたか。 (ワークシート)</p>		
終末	5 みんなでビリーブを歌う。	<ul style="list-style-type: none"> 友だちのことを考えながらビリーブを歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○助け合っている場面の写真を見ながら歌い、温かい雰囲気終わるようにする。 	C D 3分

6 評価の観点

○児童サイドの評価

- 登場人物の気持ちになってしっかり考えることができたか。

(発言・ペアでの話し合い・観察)

- だれとでも仲よくしようとする気持ちをもつことができたか。

(発言・ワークシート・観察)

○教師サイドの評価

- 児童の発言やつぶやきを大切に、児童の思考を深めることができたか。
- ペアでの話し合いは、効果的だったか。
- 場面絵や短冊などの提示方法は、効果的だったか。

【板書計画】

およげないりすさん

はくちよう およげる
あひる いけのなかのしまで
かめ あそぼう。

およげない
【りす】
つれてつて。



○りすさんをおいていったとき

- ・ およげないからむり。
- ・ のせるのはたいへん。

- ・ ぼくのこときらいなかな。
- ・ さみしいな。
- ・ ひとりぼっち

○あそんでいてもりすさんのことがきになってたのしくない。

- ・ どうしているかな。
- ・ さみしいだろうなあ。
- ・ いっしょにあそびたいなあ。
- ・ わるいことをしたな。

○みんなでしまにいったとき

- ・ ごめんね。
 - ・ のせていってあげるね。
 - ・ みんなでまもるからだいじようぶ。
 - ・ たのしいね。
 - ・ いっぱいあそぼうね。
 - ・ みんなでいくとたのしいね。
-
- ・ ありがとう。
 - ・ しんぱいしてくれていたんだね。
 - ・ やさしくしてくれてありがとう。